

第1回 横浜市水道料金等在り方審議会会議録	
日 時	平成30年5月7日(月) 15時45分～17時15分
開催場所	横浜市水道局 会議室
出席者	石井晴夫、岩佐朋子、岩室晶子、小泉明、滝沢智、椿愼美、濱田賢治、宮崎正信、森由美子(9名) ※敬称略 50音順
欠席者	なし
開催形態	公開(傍聴者2人)
議 題	1 会長・副会長の選出 2 諮問 3 横浜市水道局の概要及び課題への取組について 4 意見交換
議 事	<p>1 会長・副会長の選出について 滝沢委員を会長に、石井委員を副会長に選出した。</p> <p>2 諮問 水道事業管理者(水道局長)が諮問書を朗読後、滝沢会長に手渡した。</p> <p>3 横浜市水道局の概要及び課題への取組について 横浜市水道局の概要及び課題への取組について、事務局より説明した。</p> <p>4 意見交換 (滝沢会長)委員の皆様からご意見やご質問を受け付けたい。先ほどの事務局からの説明についての疑問点や、今後の審議を行う上での留意点、視点、また、事務局への資料提供の要望などがあつたら、一言ずつお願いしたい。</p> <p>(石井副会長)東京都や類似の政令市との比較を含めた横浜市の状況をお話しいただき、全体像が見えてきた。また、横浜市に全国や海外から人が集まって来られたのは、近代水道があつたからこそであり、先人のご尽力に敬意を表したい。</p> <p>今後、21世紀から22世紀に向かって、横浜市水道局の料金などの在り方の検討に関わる者として、大きな責任を負っていることを痛感した。</p> <p>これまで技術と経営の両面に渡って一步一步やっけてこられた。そして近代水道の集大成が、現代の水道として横浜市水道局に受け継がれている。技術と経営、そして創意工夫や自助努力、水道局職員の頑張り等によって、この15年の厳しい状況の中で、1割程度の減収をカバーしてきたことを評価したいと思うが、このまま続けるのは難しい。</p> <p>私もエコノミストとして様々な業種で公共料金の策定に携わってきたが、この財政状況、本市を取り巻く状況は未来永劫続いていけるとは考え難い。水道局長から</p>

会長へ諮問があった横浜市にふさわしい料金の在り方について、細かいところまで我々も提案し、そしてまた議論を進めていきたい。

また、家事用・業務用・公衆浴場用という漫然とした区分は分かりにくいので、しっかりと見える化をやっていかなければならない。市民の皆様と新しい料金体系について作り上げることが審議会のミッションだと思っている。従来どおりの延長線上で考えることも重要であるが、既成概念や固定観念にとらわれない、まっさらなところから進めていくことも大事であると思う。例えば平成 17 年 1 月の東京都水道局の料金改定に私も側面から関わったが、単身世帯が増加している中で、横浜も同様である。先ほど話があった基本水量 8 m³、これでは単身世帯にはあまり効果を及ぼさない。今日では 5 m³程度の使用者がかなり増えてきている。節水型社会に向けて節水努力に対する評価、こういったものをしっかり考えなければならないといったこともあるので、自分なりに今までやってきた中で、横浜市民にふさわしい、良いやり方をこれから提案させていただければと思う。

(小泉委員) 130 年と歴史のある横浜水道の未来に向けて、どのように料金について考えていくか、全国が注目していると思う。今までは拡張に次ぐ拡張で、右肩上がりだった。今後の 100 年に向けてどのように考えていくのか、今の水道料金体系に疑問があるので、根底から考え直すチャンスと考える。今までも料金改定の際に、基本料金という考え方があり、基本料金分の水量を使っていないのに料金を払うのはおかしいといった議論が多々あった。そもそも 24 時間 365 日蛇口をひねれば水道の水を得られるという価値を考えていただきたい。使った分を支払うといった考え方も必要だが、いつでも使えるというチャンスについてお金を頂戴するという考え方など、発想の転換をしていくべき時代がきているのではないかと考えている。今後の 8 回の審議会で意見等申し上げたい。

水道事業の今後の持続ということを考えてときに、料金をどうしたらいいのか、目先の議論で言えば、全国では値下げをしている水道事業体などもあるが、100 年の計で考えると未来へのツケとなる。また、管路については更新に何十年もかかる。

その昔、横浜市は塩分濃度が高くて井戸が 2 個しかなく、水道に対する市民ニーズは高く、発展に伴い水道は拍手で迎えられた。しかし、水道が出て当たり前となっている今はこの状況をどういう風に考えていったらよいか、見える化を考えていかなければならない。市民に分かりやすい形で論理展開し、料金の話をしていかなければならない。払いたくなるような水道料金であるべき。

一般的に、100 年先を想像するのは難しい。専門家としては 10 年間このままでは、あるいは料金値下げなどすると、大変になることはわかるが、一般の方にはなかなか理解してもらえない。これからは理解してもらうための工夫が必要であると考える。

最初に水道が発祥した横浜市で、未来に向けた水道料金の新たな議論ができることはありがたく思う。

(岩室委員) 私は専門家ではないので、いくつか分からないことを教えてほしい。

- ・ 水道料金の使われ方の1か月換算 2,750 円のうち、委託費はどの区分に入っているのか。
- ・ 水道料金と一緒に支払いをしている下水道料金も、水道料金が値上がりした場合、一緒に値上がりになるのか。
- ・ 日本国内の例だけでなく、外国の例はどうか。例えばイギリスの民営化はうまくいっているのか。
- ・ 水道料金以外の事業、横浜 FC に配水池の上部を貸したりしているのは分かったが、それ以外にどういった収入があるか。例えば、はまっ子どうしとか。
- ・ 市民意見の募集をする時期があるのか。ある場合は私も様々なジャンルの方に呼び掛けたい。

(天下谷経営部長)

- ・ 委託費は「水道水を造って各家庭に届ける費用 410 円」の中に含まれている。
- ・ 下水道の料金は環境創造局が所管する水道とは別の事業で、料金体系も別のものである。
- ・ 民営化しているヨーロッパの国もあるが、公営に戻ってきている状況もある。
- ・ その他の事業として、水道用地の貸付や不動産売却なども行っている。はまっ子どうしは水源を理解いただくための PR が主な目的。
- ・ 市民からの意見募集は具体的にはまだ想定していない。ただ、長期ビジョンや中期経営計画策定時には、水道モニター制度やお客さま意識調査などを行い、これらを反映している。

(岩佐委員) 興味深いのは「水道料金の使われ方」。普通の製品は原材料費が掛かり、使うほど高くなるものが大半だが、水道料金についてはほとんどが固定費で、変動費が極めて少ない。市民から見たら、従量に応じて負担をしている意識が強いので、実際には固定費に負うものが多いという意識の転換を皆様にしていただくことが大きな課題なのでは。そこで、

- ・ 水道料金は原材料費が掛かるものではなく、天からの恵みを人々に届けるために掛かる固定費に対するもので、それを理解してもらうためにどのような取り組みをしているか教えてほしい。
- ・ たくさん使ったら多く支払い、節水したら少しの支払いでいいという意識も大事であり活かしていくべき。使用量に応じた料金とは異なり、例えば、西谷浄水場では歴史的な文化遺産という側面やフットボールクラブに貸し付けているグラウンドなどを活用し、生活の豊かさを支える水道の応援のための寄付、クラウドファンディングなども考えていくのか。

(天下谷経営部長)

- ・ 伝えるための努力は、公営企業として不得意なところ。広報しているが、固定費が必要なことをお伝えしきれていないのが現状。
- ・ 新たな財源調達についても、現状では料金以外に不動産の活用収入しか、主なところでは浮かんでいないので、この機会に様々なアイデアをいただきたい。

(樫委員) 水道事業の経費として固定費が 90%を超えていることを知り、その多くを従量料金で賄っている状況は改善が必要であると感じた。

資料にもあるとおり、19 大都市の多くの都市が口径別料金体系を採用しているが、この体系が料金の基となる経費を賄うのに最適なのか。他の委員から東京都の料金改定の紹介があったが、口径別料金体系を採用した理由が分かれば教えていただきたい。

(石井委員) 東京都のケースは資料もあるので、事務局、会長と相談して、どこかでご紹介したい。

(濱田委員) 横浜に来て水がおいしいと感じた。水がおいしいということは料理がおいしいことの原点なので感謝している。どんな時でも断水にならないので、職員の皆様に敬意を表したい。

- ・ 料金体系は横浜が最先端だと思っていたが、もともと水道料金はどのように決めていたのか、更新事業費が足りないということはこれまでも分かっていたはずだが、これまでどのように事業を運営してきたか経緯をお聞きしたい。
- ・ 節減努力という話があったが、水道事業は設備投資による固定費部分が大きいため、工事手法による節約などの工夫が重要であるので示してもらいたい。特に公共工事は何度も道路を掘り返しているイメージが強いので、まとめて施工するなどの工夫が今日の資料からは読み取れなかった。
- ・ 事業者として気になることだが、横浜市の管路だけでなく、事業者が所有している給水管の耐震補強の議論も大事であり、それを含め後世に受け継ぐ必要がある。私どもも 100 年の大計で給排水管の更新も考えている。建築に関しては色々な会社からアドバイスを受けられるが、給排水管に関しては手探り状態で、水道局などからアドバイスをしていただかないと、横浜市の管路は耐震補強してもその先の給水管がだめで水が出ないということでは意味がない。市民からすれば給水管もしっかりして初めて水が出るわけであって、その辺の議論が大事だと思った。

(山隈局長)

- ・ 更新事業費については随分前から把握していた。このため、ここ 15 年から 20 年は職員定数を減らす経営努力で対応してきたが、この先を考えると、持続可

能な経営のための別の方法を検討するタイミングであると考えた。

- ・ 確かに水道工事は一つの管路を更新するのに何度も掘り返したり埋めたりしているが、これは断水の時間を短くするための工程である。市民の皆様にご覧いただき必要があると考え、工事現場の見学会を行い、今まで表に出なかった苦労などを知っていただく取組に着手した。
- ・ 給水管は市民や事業者の所有の資産であり、管理は利用者の皆様をお願いしている。そうはいつでも耐震にはお金がかかるため、道路の下の給水管は水道局の費用で負担するという横浜市独自で取組をしている。PR がまだまだ足りないことを感じたため今後力を入れていきたい。

(宮崎委員) 経営状況が良好な横浜市においても、全国と同様の状況になりつつあることを改めて感じた。何とか余力のあるうちに今後 100 年の水道サービスを維持するために、料金等の改革をしていただければと思う。

- ・ 水源との関係だが、神奈川県内広域水道企業団の本市の保有水量で一日平均給水量を満たしているようだが、横浜市内の浄水場の必要性の議論になりかねない。水源開発は非常に歴史のある話である。先人の努力がやっと実を結んで使えるようになった大切な水を有効に活用し、不要であると誤解をされないよう説明をもっと行ってほしい。
- ・ 一般的に多く使用する程、単価が高くなる料金体系は電力以外あまり例をみない。水道事業では、かつて水不足の時代に節水を促すため逓増性を採用していたが、落ち着いてきた今、水を大事に使っていただき、料金の在り方について考え直す時期だと感じている。
- ・ 管路の延長と老朽化の状況について、全国的な傾向の説明があったが、横浜市の管路更新率や耐震化はどうなっているのか、現状の管路の更新率だと今後どうなるのかといった説明をいただくと、現状の投資でいいか、増やす必要があるのかの議論ができる。局独自の耐用年数 80 年だと 1.25%の管路更新率になるが必要十分であるのか等、併せてご説明いただくと、本来の投資がどうあるべきで、本来の料金収入がどうあるべきかという議論により近づくとと思う。

(山隈局長)

- ・ 初回なので全国の状況をお示ししたが、横浜市の状況については次回以降、資料を提示する。今、口頭で申し上げますと、本市は 9200km の管路延長で毎年 110km を更新している。割合で言うと毎年 1.2%程度の更新となり、80 年で一回りの計算となる。
- ・ 逓増度については、節水を促すということもあるが、少量使用者に配慮する考えから、逓増度が高い今の構造となっている。
- ・ 企業団の水で本市の一日平均給水量を賄えるようになっているが、私共の浄水場・水源を大事にしていることを、誤解を受けないよう PR していき

	<p>たい。企業団の水も安価ではない。</p> <p>(森委員) 横浜市の人口も来年をピークに減少に転じるということで、料金体系の見直しの重要性について痛感している。</p> <p>東京都と政令指定都市が採用する料金体系の状況の表を見ると、大都市の多くが口径別料金体系を採用している中、札幌市や神戸市など口径別に用途区分を組み合わせた体系を採用している都市がある。それらの都市の事業の状況と本市の違いを示してほしい。</p> <p>(天下谷経営部長) 次回以降報告させていただきたい。</p> <p>(滝沢会長) 皆様から、これからの審議の参考になる御意見をたくさん頂いた。事務局にお願いだが、本日いただいた意見を参考に、次回以降、議事並びに資料の御用意をいただけたらと思う。</p> <p>また、これから約1年半にわたり、横浜市の水道料金等の議論を、本審議会でも継続的に進めていくこととなるが、今後の議論の参考になるような資料、文献等があれば、ぜひとも事務局のほうに御提供いただければ、この場で議論するということも含めて可能性を検討していきたいと思う。</p> <p>以上で、本日の議事は全て終了する。</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特 記 事 項</p>	<p>1 資料</p> <p>(1) 委員名簿</p> <p>(2) 横浜市水道料金等在り方審議会条例及び運営要綱</p> <p>(3) 横浜市水道局の概要及び課題への取組について</p> <p>2 諮問書</p> <p>3 特記事項</p> <p>次回は、8月上旬に開催予定。開催場所は、後日お知らせします。</p>